

令和5年度(2023年度)学校評価(学校関係者評価書)

学校名	北海道弟子屈高等学校
-----	------------

1 学校教育目標

郷土を愛しくましくいきよう
自ら学ぶ意欲を持ちつづけよう

2 スクールミッション

地域(唯一)の高校として、地域の教育資源を活用した教育活動を通じて、地域の未来を創っていく生徒の育成

3 スクール・ポリシー

- 育成を目指す資質・能力に関する方針(グラデュエーション・ポリシー)
幅広い知識と高い学力、課題解決力を身に付けると共に、自分の属している場所に誇りと愛情を持ち、主体的に自らの進路や社会の未来を切り拓く力と豊かな人間性を備えた多様な人物の輩出を目指す。
- 教育課程編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)
基礎力の定着及び「コース別」「自由選択科目」「探究」の各学習活動を通して学力向上を目指すと共に、弟子屈町や町内事業所等と連携しスキルアップのための講座や学習活動を実施する。
- 入学者の受入に関する方針(アドミッション・ポリシー)
 - 1.本校で学びたいという強い意志を持つ生徒
 - 2.他の人と協働して目的を達成することのできる生徒
 - 3.人間尊重の精神を持ち、社会貢献の意識の高い生徒
 - 4.大学進学等、高い志と知的探究心を持ち、意欲的に学習に取り組む生徒
 - 5.地域・社会の課題解決に向けて主体的に取り組む生徒

【自己評価の適切さ】

- 4…適切な評価である
- 3…ほぼ適切な評価である
- 2…やや不適切な評価である
- 1…不適切な評価である

【改善に向けた取組の適切さ】

- 4…十分な効果が期待できる
- 3…ほぼ十分な効果が期待できる
- 2…あまり効果が期待できない
- 1…全く効果は期待できない

3 自己評価結果に対する学校関係者評価(4…十分 3…おおむね十分 2…不十分 1…まったくできていない)

分野・領域	評価項目	達成状況	前年	取組の適切さ	改善の方策	自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
I 組織運営	1 目指す学校像・生徒像を共有し、判断基準とすることができた。	2.8	3.1	3.1		3.3	3.3
	2 学校課題や生徒情報について積極的に情報共有が行われた。	2.7	3.1	3.0			
	3 分掌・学年間での情報共有が行われ、連携した取組が行われた。	2.5	3.1	3.0			
	4 本校生徒の学力向上や進路実現のため、公営塾と連携した取組が行われた。	2.6	2.5	3.3			
外部評価者の意見等	・「情報共有」を「いつ・どのように・誰が」をはっきりさせ、徹底できれば改善されるのではないかと思います。 ・将来をしっかりと考え、改善に努めていることに期待できると思います。 ・公営塾について、一部の先生以外、見学にも来ていない。 ・学年をまたいでの情報共有が薄い気がした。 ・次年度は、より強力に連携していきましょう。						
II 教職員の資質向上	5 服務規律は守られた。	3.8	3.6	3.5		3.4	3.4
	6 学校課題解決に向けて「すぐやる」行動をとれた。	2.8	3.1	3.1			
	7 授業研究を通して授業改善を行い、授業力は向上した。	3.0	3.1	3.1			
	8 研修の成果は生徒の指導に還元された。	2.9	3.1	3.0			
外部評価者の意見等	・外からは中々見えづらいです。 ・やらない理由を探す場面が一部に見られた。						
III 働き方改革	9 教育活動の見直しなどを通して業務の効率化を図り、勤務時間を意識した業務を行った。	2.5	2.8	2.7		3.1	3.1
	10 部活動休養日等に関する取組の趣旨を理解し、完全実施に向けた取組を行った。	2.8	3.4	2.6			
外部評価者の意見等	・地域の力を活用する方向性は必要です。 ・働き方改革のために色々必要なのですが、外部に求めすぎかと思えます。 ・外部との連携を積極的にすべき。						
IV 信頼される学校づくり	11 学校の教育活動を積極的かつ十分に発信し、活動の状況が家庭や地域に伝わった。	3.1	3.0	3.1	かつて実施されていたような、大人向けの授業体験(高校講座)等、地域に開かれた学校であって頂きたいです。	3.4	3.2
	12 学習や生徒指導等において、小中学校との連携を十分に図った。	2.5	2.7	2.9			
	13 学校評価の改善の方策は確実に実行された。	2.9	3.1	3.2			
	14 地域の関係機関や団体との密接な連携がなされ教育活動が行われた。(警察・消防・町教委・商工会など)	3.3	3.5	3.3			
外部評価者の意見等	・せっかく多くのすばらしい教育活動していますが、地域や小中学生にもっと「生徒の声」で発信できると、弟子屈高校の魅力がもっと伝わると思えます。 ・小中との日常的なつながりを工夫していきたいです。 ・情報発信は、町の広報誌折り込み以外にもう工夫あればと思います。 ・自発的な行動が、強くは見られなかったように思える。 ・保護者以外(特に小中の保護者)に、弟高の良さが十分に伝わっていないように感じています。						

V 学習指導	15	「主体的・対話的で深い学び」に向けて授業改善を実践した。	3.0	3.2	3.4	3.4	3.3
	16	シラバスの「活用と改善」は行われた。	2.7	2.5	3.1		
	17	生徒の授業外学習時間の増加(家庭学習時間や資格取得の推進など)に取り組んだ。	2.7	3.2	3.2		
	18	生徒や保護者、地域のニーズに応えた特色ある教育課程を編成・実施するとともに点検・改善に努めた。	2.8	3.1	3.3		
外部評価者の意見等	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な公開授業や取組があればいい。 資格は特に、何のための目的が示されなければ自己満足で終わることを伝えているのかと思うことがある。 						
VI 生徒指導	19	生徒の状況についての情報が共有され、生徒指導・支援があらゆる場面で適切に行われた。	2.5	2.7	3.1	3.4	3.3
	20	生徒が主体性を発揮できる機会を意図的に設けた。	3.1	3.2	3.2		
	21	HR活動や学校行事に生徒全員が積極的に参画するよう指導した。	2.9	3.4	3.2		
	22	生徒は地域社会へ積極的に貢献した。	3.0	3.0	3.3		
外部評価者の意見等	<ul style="list-style-type: none"> 様々な町のイベントへの参加・協力姿勢が感じられます。 町の行事に弟高生の活動は欠かせません。 一貫した考えのもと、また学年が上がるごとに、どの部分をどう進化させていくか、深化させていくかが理解されていないことがあるように思える。 						
VII いじめ問題への対応	23	校におけるいじめへの対処方針や指導計画を明確にした。	3.2	3.4	3.2	3.4	3.2
	24	日ごろより、いじめの実態把握に努め、いじめの早期発見・早期防止を心掛けた。	2.9	3.3	3.2		
	25	いじめの対処方針や取組について、保護者や地域と共有し、理解や協力を得た。	2.8	3.2	3.1		
	26	いじめが生じた際に、学校全体で組織的に迅速に対応する体制が整備され機能していた。	2.5	3.3	3.0		
外部評価者の意見等	<ul style="list-style-type: none"> 外部からは見えない点です。 						
VIII 進路指導	27	3年生の進路希望は実現した。	3.3	3.2	3.6	3.4	3.3
	28	教職員が共通理解と協力のもと、進路実現に向けた取組が、生徒の実態に応じて行われた。	3.1	3.3	3.3		
	29	本校のキャリア教育の方針が作成され、生徒が自己の将来の在り方・生き方を自ら考えることのできるよう効果的な指導が行われた。	3.1	3.2	3.5		
外部評価者の意見等	<ul style="list-style-type: none"> 何年も前から指摘しているが、机上の空論で、生徒や社会の現実を見ていない場面があった。 						
IX 健康安全指導	30	保健衛生についての情報は提供され、生徒の適切な行動に結びついた。	3.3	3.2	3.4	3.5	3.3
	31	防犯、防災訓練は実践的に行われた。	3.6	3.5	3.5		
外部評価者の意見等	<ul style="list-style-type: none"> 将来的には、小中との一体化が必要かもしれません。 						
X 道徳指導	25	ボランティア活動などを通して、生徒の自主性、自律性を高めるとともに、豊かな人間性を培う場になった。	3.0	3.2	3.3	3.3	3.1
	26	基本的な生活習慣の定着や社会生活のルールを守る態度やモラルの育成に努めた。	2.9	3.1	3.2		
	27	生命の尊さや他を思いやる心を育てた。	3.3	3.3	3.3		